

第1回 豊岡市地域福祉計画策定・推進委員会 会議録（要旨）

日 時：2026 年 2 月 20 日（金）13:30～15:30

場 所：豊岡市役所立野庁舎 1 階 多目的ホール

出席者：15 名

欠席者：4 名

1 開 会

2 委嘱書の交付

机上配布

3 あいさつ

豊岡市健康福祉部 若森部参事

豊岡市社会福祉協議会 田中事務局長

4 自己紹介

委員自己紹介

事務局は名簿による紹介

5 報告事項

(1) 豊岡市地域福祉計画策定・推進委員会について 別紙 1

(2) 計画策定スケジュールについて 別紙 2

事務局説明

6 協議事項

(1) 委員長及び副委員長の選出について

委員長 平野 隆之 委員

副委員長 西池 匡 委員

(2) その他

特になし

7 ワークショップ

<セッション 1> 地域福祉の理解と地域福祉計画への示唆 別紙 3

「地域福祉の理解と特性」と題し、平野委員長による説明とグループワーク

＜セッション2＞ 豊岡市が目指す地域福祉の姿とは

4つのテーマについてグループワーク

論点整理 テーマ1～3

・テーマ1「2040年のこうなりたくない（最低な）地域の姿とは」について

全体として、大きな論点がいくつか挙げられた。「見守りやつながりの希薄化」「地域活動や居場所の喪失」「世代交代の失敗による地域の衰退」「支え合いの偏在」「生活基盤・インフラの崩壊」といった点が危惧された。例えば、見守りやつながりについては、近隣コミュニケーションの減少や孤立の増加が挙げられ、活動や居場所については、行事の減少や移動の制約などが議論された。

・テーマ2「2040年のこうなってほしい（最高な）地域の姿とは」について

特に「誰もが活躍できる地域」という声が多く聞かれた。障害や世代を超えて、それぞれが役割を持ち、相互に協力し合える仕組みが求められていること、また、「多様性の受容と共生」「居場所とつながり」「若者の定着と地域の活力」「柔軟な支援とインフラ」「使いやすいデジタル社会基盤」などが重要な論点として挙げられた。外部の人も参加できる開放性や、若者が戻りたくなるような魅力を持つ地域づくりが望まれている。

別の視点からの分析として、テーマ1の議論を座標軸で整理すると、「担い手が偏在・縮小し、高齢者に負担が集中する」という象限に最悪な未来が集中していた。生活インフラの視点でも、「移動が困難になり、医療・学校・交通が空洞化する」という状態が最悪な未来として認識されています。一方、テーマ2の理想の姿については、「世代を超えた開かれたネットワークがあり、孤立が起きにくい社会」という象限に意見が集中した。

・テーマ3「豊岡市らしい地域福祉の目指す姿」について

「おせっかいを前向きに捉え、日常的な関係を広げる」「子供から大人まで出番がある仕組みを作る」「ゆっくりできる環境を共有の財産として育てる」といった、地域性を生かした前向きな意見が多く見られた。今回のワークショップでは、参加者の皆様のバックグラウンドが多様であるにもかかわらず、最悪な未来と最高な未来の方向性が全体として非常に揃っていたことが大きな特徴であった。

8 その他

事務局から事務連絡

9 閉 会